

風物詩

つっじ 躑躅と炎の伝統行事 ～林昌寺と火渡儀式～

林昌寺は、天平年間に行基により開創された真言宗の寺です。平安時代後期に堀川天皇が御幸のおり、寺庭の山つつじがあまりに見事であったため、山号を「躑躅山」と改め、寺号を「林昌寺」と勅号されたと伝えられています。春には躑躅山の名のとおり庭園に躑躅が満開となり、山の斜面を利用して全体で極楽浄土を具現する意図をもって作園された法林の庭に彩りを添えます。



山の斜面を利用した庭園

毎年成人の日には、境内の法林の傍、愛宕山山頂付近で、約2メートルの大護摩壇を用いた「柴燈大護摩供さいとう おおごまく」が行われます。柴燈大護摩供とは修験道の護摩焚きのことです。野外において山伏が生木や柴などを積み上げて火を焚き、五穀豊穰、風雨順次、国家安泰、家内安全等を祈願する敬虔な炎の祭典です。

山伏たちにより、柴や生木などを積み上げた大護



猛炎を上げる護摩壇

摩壇に火が入れられると、猛煙に続いて火柱があがり、読経の中、家内安全、火難消除、無病息災の願いを込めた護摩木が次々と投げられます。その光景は、まるで人々の願いが燃え盛る炎と共に空高く舞い上がっていくかのようです。

焚き終わった後は、真っ赤になった炭を平らに敷き詰め、その上を素足で歩く「火渡りの儀式」が行われます。初めに山伏たちが次々と火渡りの行を行いながら所願成就を祈願していき、続いて一般の参詣者も裸足で炭の上を歩き、災難回除けを願います。見ているだけで火傷しそうですが参加する人は後を絶たず、順番待ちの長い列ができるほどです。

皆さんも新年の寒さで身を引き締めた後、火の上を渡りながら家内安全、無病息災を願ってみてはいかがでしょうか。



山伏による火渡儀式



参詣者による火渡り

● お問い合わせ先 ●

泉南市総務部政策推進課

TEL : 072-483-0004

FAX : 072-483-0325

E-mail : seisaku@city.sennan.lg.jp